

旧中和家住宅の紹介

豊岡市教育委員会

中和家

中和家はもとの姓を中尾といい、隣接する竜谷寺^{りょうこくじ}の過去帳によれば江戸時代初期に遡る家と伝えられます。また、出石城主小出英安^{ひこやす}（藩主就任期間 1673-1691）とともに、施主として竜谷寺の再建に尽くしたといわれ、古くから大庄屋を勤め、当主は代々岡右衛門（あるいは岡次右衛門）を襲名していました。

中和家住宅について

18世紀前期ごろに建てられたと推定され、但馬地域における最古級の大型民家です。主屋建物は桁行9間、梁行5間半で、1階居室は入口左側に6室を3列に食い違いに配し、中ほどに2畳の仏間を設けています。また表居室中央には貴人を迎えるための式台玄関を備えています。特に奥の間は建設当初の様相を良く残しており、安永7年(1778)に書院の改造がなされたことがわかっています。

2階は昭和6年に養蚕をするために増築されています。板の間の部屋と吹き抜けを設け、茅葺屋根であったのが瓦屋根に代えられ抜気も設けられています。この増築の折、北但大震災の経験を踏まえての耐震補強もなされています。

中和邸庭園について

庭園は、昭和63年4月26日に豊岡市指定名勝に指定されました。規模は大きくありませんが、傾斜を利用して築山を造り、枯滝を組み、鶴の形の池泉に亀島と蓬莱島とを兼ねた中島があります。地元の石材を巧く使った構成に高い評価があります。民家の庭園は管理が難しく、18世紀中ごろの様相がそのまま残る貴重な例といえます。

中和家所蔵品について

代々集められてきた所蔵品の中には、出石藩主仙石家からの拝領品と思われる仙石家の家紋入り幕や鑓^{やり}、食籠^{じきろう}などが含まれています。また、遊山のための道具数点も当家が鷹狩りの際の宿となっていた際に与えられたと伝えています。毎年正月飾りに用いられていた分銅・天秤一式は、机上に組み立てる本格的なもので、税金を銀納する必要から大庄屋に置かれたものと推定されます。